

# 九州大学

共創学部 共創学科

この学科で学ぶこと

学問分野の枠を超えて、広い視野と知識で課題を適切に把握する力や他の人の知見や能力、価値観を柔軟に受け入れ、生かす高度なコミュニケーション能力を国際的なレベルで養う。



大学情報 URL <http://www.kyushu-u.ac.jp/>  
〒819-0395 福岡市西区元岡744  
九州大学 学務部入試課  
TEL 092-802-2004

共創学部	文学部	教育学部	法学部
経済学部	理学部	医学部	歯学部
薬学部	工学部	芸術工学部	農学部



### 将来は国際的に物事を伝える仕事を

小さい頃から自分の考えや物事を伝える仕事が好きだったので、ここで学ぶことで英語や物の本質を捉えるスキルが身につきます。将来は国際的な視野を持って出版の仕事などに就きたいです。

武田 奈々さん  
共創学部 共創学科3年 / 広島県 広島市立 基町高校卒



### 共創学部では実践英語が身につく

1年のときにしっかりと実践英語を学び、今受けている講義で英語プレゼンをします。ほかにも他学部では扱わないトピックをテーマにするので、そこもおもしろいと思います。

石川 貴也くん  
共創学部 共創学科3年 / 愛知県 私立 東海高校卒

## Overcome COVID-19

### 新型コロナ対策

九州大学では、令和2年度春学期から、約4900科目でオンライン授業を実施しています。授業がスムーズに実施されている背景には、学生主体のサポート体制「quickQ」の存在も欠かせません。メンバーの中には共創学部の学生も活躍しています。

1. quickQとは  
quickQは、国立大学初のLINEによるオンライン授業サポート機関です。運営のほぼすべてを九大生が行うことにより、学生視点で使いやすいサポートを実現できました。大学の問題を学生が解決するという点に加え、新型コロナの影響でバイトがなくなった学生のための雇用創出という点でも学内外から評価いただいています。

2. 活動中の苦勞  
私たちはオンライン授業の実施が決定してから10日でquickQを立ち上げました。新型コロナによりさまざまな制約がある中、0から仕組みを作るのは大変な作業でした。そんな中でも、オンラインで何度も話し合い、質問対応のフローを構築しました。サービス開始後「おかげさまで授業を受けることができた」という声をいただいた時には、苦勞が報われたと非常に嬉しかった。また同時に、当り前の実現には多くの人のサポートが必要だということを実感しました。



quickQで活躍する仲村怜夏さん (共創学部2年生)

### 2020年度 オープンキャンパスは オンラインで開催中!

最新の入試情報ガイダンスや模擬授業の動画など、多数のコンテンツを用意。ぜひHPへお越しください。



## ワーキング・ストレスの課題を解決せよ



本日の講義  
5.7(火)  
at 伊都キャンパス  
13:00-14:30, 14:50-16:20

## 共創基礎 プロジェクト1

2018年度に新設された共創学部は、自然科学・社会科学・人文科学など学問分野の枠を越えた課題を解決できる人材を育成する。同学部で2年次の春に行われる講義が「共創基礎プロジェクト1」だ。文字通り「共創」の基礎習得を目指し、「地球・環境」「国家と地域」「人と社会」など大きく4つのエリアを順に学ぶが、今回の講義はその一つ「人間・生命」エリアで、「ワーキング・ストレス」がテーマ。クラスを5

つのグループに分けてテーマについて討議を行い、その解決策をグループごとに発表する。学生同士で評価しあい、最終的に一番良いものを選んでいく。同講義は三木先生が全体の取りまとめを担い、ローレンス先生をはじめとする各エリアの教員が複数人体制で指導にあたるのが特徴。ローレンス先生曰く「この講義はグループで学ぶことと、その中でどうやってプロジェクト・デザインをするか。その習得が目標」とのこと。講義はローレンス先生を中心に英語で進められる。共創学部では、1年次よ

### この講義で 学ぶこと

グループ学習を通してさまざまな視点から課題を見出し、お互いに議論し協働することで実現可能な解決策を創造する。また英語の講義を理解し自ら英語で発表を行うことにより実践的な英語力身につける。

り基幹教育として徹底した英語教育が行われている。そこで学んだ実践英語能力が今回の講義で生かされ、先生と学生のやり取りはすべて英語で行われる。議論中の学生たちに向けてローレンス先生が英語で呼びかける。「議論するに当たって大切なのは、そのプランが、①効果的か②実現可能なものか③費用問題を解決できるか④革新的なものかです。それをよく考えて話し合ってください」これを受け、学生たちはグループ内で真剣に議論をしていく。各グループがプランを作成し、発表順を決めたところで一限目が終了。

### それは革新的なプランか？ 最終評価を学生同士で決定

二限目は各グループ5分間ずつ、英語でのグループ発表となった。論理的にプラン説明を進めていくグループ、スライドで視覚的なインパクトを狙うグループ、ユニークなロールプレイングでクラス中を驚かせたグループなど、多様な手法で発表が進む。発表が終るごとに、先生による短評と他グループの学生による質問が英語でなされる。



「ワーキング・ストレスの課題解決には、睡眠や健康などの生理学だけでなく政治や経済学の視点も必要なんです」とローレンス先生。これからは、より複雑で予測不能な社会問題がいつ起きるにも限らない。そのときこそ「共創」の考え方や解決への取組みが重要になってくるだろう。

※講義は2019年に取材したものです。

みき 三木 洋一郎先生とローレンスヨハン先生に聞きました

Q 今日の講義は、10年後の社会でどのように役に立っていますか？

A 多面的な価値観を持った人々と力を合わせ新しい価値を生み出す人材になり社会に貢献しているでしょう(三木)。この講義では知識ではなく手段を学びます。将来、新たな課題に直面した際に自分で解決できるようにしよう(ローレンス)。

### Profile

三木洋一郎：1990年 東京大学 理学系研究科 物理学専門課程修了。理学博士。1994年 長岡技術科学大学工学部助手。1998年 高知大学医学部助教授。2017年より九州大学 基幹教育院教授。専門分野は医学教育学。2018年より共創学部専任教員。



ローレンス・ヨハン(Lauwereyns Johan)：1998年、ルーヴレン大学 心理・教育科学部 心理学科専門課程修了。認知心理学博士。同年、順天堂大学心理学科博士 研究員として来日。2010年より九州大学 基幹教育院教授。専門分野は認知神経科学と生命倫理学。2018年より共創学部専任教員。



### 記者の目 九州大学は こんな大学

今回取材した共創学部の学生の皆さんは、英語の講義も内容をしっかりと理解し、そのうえで各グループが活発な議論を行っていました。英語でのプレゼンも高いレベルで進めていく姿に、彼らがこれからの日本を牽引していく未来を想像しました。